

## ★朝鮮半島の平和に希望が持てる理由

ウィリアム・オーバーホルト（ハーバード大上席研究員）

専門家たちは今の平和イニシアチブに懐疑的だ。過去にも同じことがあったとか、北朝鮮は信用できないとか、過去2回とも失敗しているとかいっている。しかし今回は違う。金正恩は、経済成長が決定的に重要だと確信している。父や祖父の政策で国が破壊された、彼の将来はその再建にかかっていることが分かっている。昨年、新年の辞では、これまで経済がうまくいっていないことを謝罪させた。改革は、法律上は違法にしたまま地域の市場を自由にするところから始まった。この政策は早々と成功を収めた。信頼できる核戦力が構築できれば、戦車や航空機に多額の投資する必要はない。経済発展への投資をふやす。軍部はそれを我慢しろという主張を強力に押し進めた。この点に鑑みれば韓国企業による投資は、確実に成功するだろう。

経済優先の新しい政策は、平和にむけた新しい外交を生み出した。朝鮮戦争以来、北朝鮮は韓国を米国に占領されたカライと非難してきたが、金正恩の下では、大概は、同輩の朝鮮政権として扱っている。一方、韓国の方は複雑だ。保守政権はこれまで、例外はあるものの、北朝鮮との関与を拒んできた。リベラル政権は未熟でナイーブだった。だが、現在の文在寅政権は老練で、熟達した顧問たちがいる。野党の保守勢力は朴槿恵スキャンダル後、混乱したままで、文政権のイニシアチブを容易には妨害できない。ただ軍部は強力で、保守的な声や民族主義的な世論を重んじているので、韓国の安全を危険にさらすような合意はさせないだろう。

半島の外でも、状況は平和に向けた変化がおきている。中国は北朝鮮の挑発に愛想をつかしている。平和協定に賛成する用意がある。核問題があるため金正恩と習近平は今度の平和イニシアチブまで一度も会談しなかった。両国は深い対立関係にある。北朝鮮の核計画は、1992年の中国による韓国承認にたいする怒りの対応だった。叔父や実兄の殺害も、両氏が中国に接近しすぎたためだった。中国はことし、北への制裁を強めた。ところが今年になって中国は何年かぶりに、注意深く、民間のフォーラムなどで、統一朝鮮について語るようになってきている。もし米国が北に平和条約と体制の保障、国交正常化と経済的なチャンスを提供しても、北がなお非核化を拒むならば、中国は北朝鮮にきわめて厳しい対応をするだろう。退職した高官たちがそういっている。特に中国は、北京と上海が北朝鮮の核の標的になりうることから、その脅威を絶対に取り除かなければと考えている。

トランプ政権の周囲の混乱は驚くばかりだが、政府は過去のどの政権よりも平和のリスクを負う意思を示している。米国がトップレベルの人物（カーターのような）を送って対処すれば、取引は成立する。国務次官補クラスでは、北朝鮮は侮辱を感じて妥協に抵抗する。米国の専門家たちは、北が信頼できないことを盛んにいうが、父ブッシュ時代に北朝鮮の期待を非常に高めたことがあった。韓国から戦術核を撤去し、チームスピリット軍事演習を取りやめて、北との直接対話に合意した。それによって南北朝鮮は非核化についての共同宣言に調印できた。この後、チェーニー国防長官が国務省と相談しないままチームスピリットを再開した。ブッシュ後のクリントン政権は前政権のイニシアチブを継続しなかった。次のWブッシュ大統領は北の崩壊を期待し、政権内の保守派がクリントン政権による1994年の枠組み合意に反対した。そのために政権は合意を最後まで履行しなかった。幸いなことに今は、多くの尊敬すべき元政府当局者たちが、今度こそ米国は約束を守らなければならないと主張する心構えをしている。

最期に、今回は両朝鮮とも、核停戦だけでなく、より幅広い統一を考えている。誰もが恐れるのは突然の統一だ。中国は軍事的に、また移民の問題の混乱からそれを恐れるし、北は指導部の生き残り、韓国は耐えられないほどの財政負担を恐れている。しかし一国二制度と段階的な統一を宣言すれば混乱はさけられるだろう。北の指導者たちの生命の安全も立場も確保できるし、韓国の財政負担も最小限におさえられるだろう。こうした漸進主義をとれば、韓国の複合企業が工場をつくって北の安価な労働力を使うから北朝鮮の人々の収入や文化的な適応が急速に改善するだろう。移住をコントロールして段階的にすすめれば北朝鮮の農民と韓国の中産階級が混交していくだろう。これをうまくすすめるのはむずかしくデリケートだが、考えられないことではない。

中国の軍人たちは米軍が鴨緑江にせまってくることを心配し、米国の方は、統一朝鮮が中国の手先になったり、北が南を接収することになることを懸念している。しかしこうした不安には現実性が欠けている。核戦争の危険を平和に置き換えると、米軍の制限あるいは撤退にさえつながる。朝鮮のナショナリズムは、統一朝鮮が中国の手先になることも、米国の手先になることも阻むだろう。韓国は人口でも経済でも北朝鮮の比ではない。なまけものがタイガーを食うことはありえない。韓国の専門家たちは、いまの交渉がうまくいかなかったときのことを心配している。金正恩はもう一度、秘密の核をのこすのではないか。通常兵器に続いて核兵器をも削減するとなれば軍部は金正恩を排除するかもしれない。ボルトン補佐官は戦争を推奨するかもしれない。トランプ大統領が、米国の行動の

前に北朝鮮はすべてをおこなえと主張し続けるかもしれない。次期米政権が過去の合意を破ることだってありえる。取引の条件が改善されたからといって、成功の保障にはならない。しかしすべての関係国は障害を克服するあらゆる可能な手段を見つける道義的な責任をおっている。それら欲するのはたんに宿命ではない。平和を守り、核戦争を回避することは絶対に必要なことなのだ。(了)

◇6/1East Asia Forum 掲載の寄稿文の抄訳。著者はアジア核不拡散問題の専門家。韓国と台湾の核開発放棄の経緯を分析した「アジアの核未来」(1976) など  
(以上)